共生・地域づくり分科会　中間報告（キーワードの整理）

１．これからのまちづくりの視点

（視点１）
誰もが地域でいきいきと暮らせる「共生の地域づくり」を具体的に実現する

（視点２）
住民が主体となり、自ら地域を守り育てる活動を広げ、発展させる

（視点３）
地域住民のつながりを広げ、深めるための取組みを展開する

（視点４）
縦割りのカベや官民のカベを破り、協働による地域づくりの仕組みをつくる

（視点５）
「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」の視点で優先順位を絞り、着実に実現する

２．取組みの方向と課題

（方向１）
地域の中で子どもと子育てを支え合う場づくり
- 子どもたちが集まれる場づくり
- 子育てをしながら働く人の支援
- 孤立している母親を支える取組み

（方向２）
障がい者が地域でいきいきと暮らせる仕組みづくり
- 障がいのある子どもたちを地域で支える仕組み
- 知的障がい者が地域で暮らし続けることのできる仕組み
- 障がいのある子どもを持つ母親を支援する仕組み

（方向３）
高齢者が地域で暮らし続けることのできる仕組みづくり
- 自立した暮らしを支援する仕組み
- 地域の中で介護を支援する仕組み

（方向４）
地域の人々の交流やふれあいを広げる場づくり
- 誰でも気軽に集える場づくり
- 地域の「よろず相談所」づくり
- 地域の人材や活動をつなげる仕組み

（方向５）
市民が健康に生活できる仕組みづくり
- 市民レベルの健康づくりを支える仕組み
- 誰もが適切に医療を受けることができる仕組み

３．当面の重点的な取組み ／ ４．行政施策の提案

地域の情報・相談機能の強化
- ●住民に身近な情報・相談窓口と拠点を設置する
- ●情報・相談窓口のコーディネータを育成する
- ●問題解決・支援のための専門家ネットワークをつくる
- ●障がい者への情報提供をきめ細かに行う

使いやすい行政サービス
- ●地域の公共施設を情報・相談拠点として有効に活用
- ●行政情報の総合的な窓口機能とサービスを提供
- ●縦割りではなく、地域づくりに関連する施策を総合的に進められる仕組み

地域ケアシステムの充実
- ●障がい者の学童保育、デイケア、在宅ケアなどを充実する
- ●高齢者・障がい者・乳幼児のデイケアを総合的に受け入れる施設づくりを進める
- ●グループホームなどの安心に暮らせる地域の住まいづくりを進める

官民協働事業の展開
- ●民間の取組み（共同学童保育所など）の支援
- ●民間運営＋住民参加＋行政支援によるデイケアハウス（富山方式）の展開
- ●共生を支える札幌独自の制度や事業の創設

地域の「居場所づくり」の実践
- ●「バリアフリー公園とふれあいの拠点づくり」を展開する
- ●様々な交流活動やふれあい活動を実践する
- ●地域のまちづくり組織の連携と協働を進める
- ●活動を支える人材や資金を確保する仕組みをつくる

住民主体の事業への支援
- ●住民主体による公園づくりと管理運営の展開
- ●公設民営方式による地域づくり事業の展開
- ●地域の空家のリノベーションと活用の促進

健康づくり支援体制の充実
- ●情報提供，相談，健康づくりの場を充実する
- ●子どもの頃からの健康教育を進める
- ●札幌市の国民健康保険制度を改善する

５．実践のための手法と仕組み

人材の活用
- ●地域の人材の活用とネットワークづくり
- ●青少年育成のためのコーディネータの育成

多世代が集う場づくり
- ●地域の中に若者から高齢者まで多世代が集うたまり場を開設
- ●若者や青少年がボランティア活動に取組む場づくり
- ●地域の福祉活動の中で若者たちの働く場を創出

ＮＰＯの育成
- ●地域で活動する住民主体のＮＰＯを育成
- ●防災対策、環境維持のための地域活動を促進
- ●公共スペースを活用し地域NPO の情報を発信

ターゲットの設定
- ●施策の優先順位と具体的目標を設定
- ●抽象的な目標ではなく可能な限り数値目標を設定